

山風

やまかぜ

平成22年1月1日

正月号 第41号

発行：日蓮宗 本立寺

〒192-0902

東京都八王子市上野町11-1

電話 042-622-2262

FAX 042-622-2106

Eメール honryuji@oak.ocn.ne.jp

ホームページ http://www.honryuji.com

好い加減な間が大事

住職 及川玄一

あけましておめでとございませう。
本年もよろしくお願ひいたします。

坊さんは比較的文字と付き合うことが多い仕事かもしれません。毎日読むお経は漢字ばかりだし、皆さんにお授けする法号(戒名)は仏の弟子として相應しく、また、その方のお人柄を偲ばせる字を選ぶように努めています。

日常的によく使う言葉でも、改めてその言葉の意味を考えると、噛み砕いて説明することが難しいものがたくさんあります。例えば「間(ま)」という字などもなかなか奥が深い意味を持っているように思います。

「間違つ」、「間が悪い」、「間抜け」などと使われますが、「間」とは何なのか、説明しようとしても的確に出てきません。時、タイミングでしようか、辞書にはころあい、ひま等とあります。野球やゴルフのスイングでは間が大切なのだそうです。この場合は「間合い」



七福神めぐりに合わせ、本堂正面に安置された毘沙門天像

を略して「間」でしようか。
京都に三十三間堂というお堂があります。お寺としての正式な名称は蓮華王院です。三十三間堂の「間」はお経を読むときと同じように真音で発音し、

「けん」を濁して「げん」と読みます。お堂の柱と柱の間のことです。一間が一・八メートルですからいぶん大きなお堂です。ちなみに本立寺の本堂正面は七間です。
現在のお堂が建立されたのは鎌倉時代の一二六六年ということですから、およそ七五〇年前の建造物です。京都はお寺の多い街ですが、地震や火災によってわずかの数年でその姿を消してしまふ伽藍も多く、その反省から地震に強い建物を建立する苦心が随所に施されたそうです。

新年のごあいさつ

明けましておめでとございませう。

壇信徒の皆さまには、常日頃より当山に対し、格段のご協力、ご理解を賜り、心から御礼申し上げます。

皆様のお陰を持ちまして、昨年中の諸行事等がすべて滞りなく終了し、ここに新たな年を迎えることができました。

本年も本立寺の護持興隆のため総代・世話人一同努力してまいりますので、どうぞ引き続きご理解・ご協力をお願い申し上げます。

匠たちによって建物の隅々に絶妙な間が施されたのです。
先が見えにくく、山あり、谷ありの人生です。私たちも自分の生活の中に適当な「間」を持つことが必要なのではないでしょうか。それがしなやかに、強く生き抜くための骨のようにも思われます。新年のスタートです。ちよっとおっとりすぎと勘違いされるくらいに、好い加減な間をとって、自然体の日々をお過ごし下さい。まだ「間に合う」はずですよ。



総代 小宮 直治

川村 真

矢崎 利昭

安藤 謙治

小川 愛子

世話人 一同

従地涌出品第十五

前回の安樂行品で、法を広めるための心得を聞いた菩薩たち。その中でも私たちが生きている娑婆世界とは別の世界から来ていた無数の菩薩たちが立ち上がり、「お釈迦さまのお亡くなりになられた後、私達がこの娑婆世界に法華経を広めましょう」と申し出ます。しかし、お釈迦さまは「あなた達が法華経を広める必要はありません。なぜならば、私にはあなた達の数をしのぐ、多くの弟子の菩薩がいて、私がこの世を去った後、それらの菩薩たちが法華経を守り、広めていくからです」とその申し出をお断わりになります。すると次の瞬間、大地が激しく振動して、地面の下から数えきれない数の菩薩たちが現れました。『地涌の菩薩』です。大地から湧き出てきた菩薩なので、地涌の菩薩と呼ばれます。この不思議な光景を目当りにした菩薩達に、お釈迦さまは「私は悟りを得て以来、この娑婆世界で彼らをずっと教え導いてきました。いわばこの地涌の菩薩は、私の子供の様なものです」と語られました。しかし、これを聞いた弥勒菩薩は、疑いを抱き、お釈迦さまに「お釈迦さまが悟りを得て、四十年余の年月しか経っておりません。その少しの間はどうしてこのような大勢の菩薩たちを教え導く事ができるのでしょうか。例えば二十五歳の青年が百歳の人をつかまえて、自分の子であると言っているようなもので、信じる事ができません」と問い正されました。残念ながら従地涌出品はここで終わり、次の寿量品へと続きます。

法華経二十八品

◆その教えのポイント◆



「法華経」を弘める決心をする日蓮聖人

お断わりになります。すると次の瞬間、大地が激しく振動して、地面の下から数えきれない数の菩薩たちが現れました。『地涌の菩薩』です。大地から湧き出てきた菩薩なので、地涌の菩薩と呼ばれます。この不思議な光景を目当りにした菩薩達に、お釈迦さまは「私は悟りを得て以来、この娑婆世界で彼らをずっと教え導いてきました。いわばこの地涌の菩薩は、私の子供の様なものです」と語られました。しかし、これを聞いた弥勒菩薩は、疑いを抱き、お釈迦さまに「お釈迦さまが悟りを得て、四十年余の年月しか経っておりません。その少しの間はどうしてこのような大勢の菩薩たちを教え導く事ができるのでしょうか。例えば二十五歳の青年が百歳の人をつかまえて、自分の子であると言っているようなもので、信じる事ができません」と問い正されました。残念ながら従地涌出品はここで終わり、次の寿量品へと続きます。

まに「お釈迦さまが悟りを得て、四十年余の年月しか経っておりません。その少しの間はどうしてこのような大勢の菩薩たちを教え導く事ができるのでしょうか。例えば二十五歳の青年が百歳の人をつかまえて、自分の子であると言っているようなもので、信じる事ができません」と問い正されました。残念ながら従地涌出品はここで終わり、次の寿量品へと続きます。

この従地涌出品での最も大事な部分は地涌の菩薩の出現です。特にその中でも日蓮聖人は、この菩薩たちのリーダーである上行菩薩の存在に注目されました。上行菩薩はお釈迦様が亡くなった後、法華経を広め、人々を導く最高責任者として認められた菩薩さまで、日蓮聖人はご存知のように佐渡流罪など多くの法難を受けられました。そして、そのことは逆説的に聖人もまたお釈迦さま亡き後に法華経を広める菩薩のひとりであるとの証しとなつて、聖人が自身を上行菩薩と自覚される上での力となりました。

「地涌」とは大地から湧き出るといふことです。しかし、それをそのまま信じることはできないでしょう。けれども、こう解釈すればどうでしょう。地中に暮らすごとく、今までだれの目にも止まらなかった人々。すなわち、多くの私たちです。お釈迦さまは特別な人々を地中から出現させたのではなく、世界中のすべての人々に期待されたのではないのでしょうか。

学無学

おしえて下さい。

Q 御朱印と絵馬について教えてください。



するときに奉納する、絵が描かれた木の板です。絵馬の起源は御朱印よりも古く、奈良時代とされています。当時は、神馬（神の乗り物としての馬）を奉納していたそうです。今のような木の板になったのは平安時代からと言われています。本立寺では、御朱印は「南無妙法蓮華経」のお題目と「毘沙門天」を、絵馬は「宝船」と「毘沙門天」を各二種類ずつ用意しています。また、絵馬はお願い事を書き、境内にある浄行堂に奉納することが出来ます。お正月は七福神巡りが開催されます。新年の想いを絵馬に込め奉納し、また御朱印をいただきながら福を授かってみてはいかがでしょうか。きっと気持ちの良いスタートがきれることと思います。

絵馬とは、寺院や神社に祈願するとき、および祈願した願いが叶ってその謝礼を

お墓参りでポランティア

お寺でお買いたたくお線香代の二〇〇円は、東京都小平市にある障害者施設（授産施設）に全額寄付させていただきます。お待ちしております。



お参りの方のご理解とご協力が大きな支援活動となります。ご協力をお願いします。

墓所の植木について

当山境内並びに墓地は、日ごろからのお檀家様のご協力により、清々しい環境を保つことができております。その御礼を申し上げるとともに、引き続き各家墓所の管理をお願いいたします。特に大きくなりすぎた植木につきましては、寺務所にお申し付け下されば当方で処置いたします。皆さまが気持ちよく当山をお参りできますよう、山務員一同、より一層精進してまいります。

吉田知弘 海外寺院見聞録

Vol.3

Italy Milano

《イタリア・ミラノ編》



インターネットで信徒と会話をするタラビーニ勝亮上人

今回の研修は北イタリア産業の中心都市ミラノであるが、ブラジルを出国してからミラノ研修が始まるまで約一カ月時間が空いたためモロッコやノルウェー、フランス等数カ国を巡った。どの国も建築や食事に歴史と文化を感じ、人々もその事に誇りを持っており、また地下鉄等に乗るだけでも、「賑やかなスペイン」、「静かに話すドイツ」等、国民性の違いが伺える。どの国も親切なところが多く楽しく過ごすことが出来たが、歴史から見ても欧州は大国が隣接し合い、古い時代からも民族同士の争いや支配が絶えない地域であり、現在はEUとして協力体制にあるといったも民族や国籍、地域や歴史に関してタブーがあったり、蔑視、摩擦が多く残っているようにも感じた。私が今滞在するイタリア自体も共和国であり、以前は二十の都市国家(王国)に分かれていたため、公用語であるイタリア語の他に地域ごとの言葉もあり、日本の「方言」よりも違いが大きく、互いに理解することは難しい様である。それ程に地域差があり、文化や国民性の多様さに驚かされる。



移転候補地、トリノを首都とするピエモンテ州チェレゼート

お寺はミラノ郊外の中でも非常に閉鎖的だといわれる地域にある。主任(住職)であるタラビーニ勝亮上人がアメリカ・ロサンゼルスから単身で赴任し、現在地に弘法山・蓮光寺を開かれた。閉鎖的な土地柄の上、馴染みの薄い仏教寺院ということもあり、お寺が出来てから2、3年は挨拶さえしてもらえない程であったとい



お題目を唱え街を歩く。国民性なのか恥ずかしさなど全く見せない方が多い。



パスタ天国イタリア、スーパーの一角は全てパスタ。

う。それでも子供達のために鶏や雉を飼
い、花を植え、地域の人にも提供し、お
寺での食事に一人暮らしのお年寄りを
誘うなどの活動により、カトリック信者
にも関わらず、成道会で街を行列するこ
きなどは沿道で合掌して敬意をもって接
してくれるようになった。

それでも諸般の事情があり、近くトリ
ノを首都とするピエモンテ州チェレゼー
トへの移転を予定している。

このお寺の信者になった人たちはイタ
リア人だけでなく、近隣諸国や最近では
ギリシャ、アフリカ、ポーランド等にも増

えており、これまではそれらの人たちの家
庭を訪問し、巡回布教にも出かけていた
が、移転後はそれらの回数を減らし、お寺
まで参拝に足を延ばして頂けるよう考え
ている。時間的、経済的理由から実現は
簡単ではないと思えるが、信徒さん方がぜ
ひ行きたいと思えるような場所にし、欧州
の信仰の中心となる事が目標である。

チェレゼートという街の名の由来は「チ
リ干シヨ(桜)」からきており、その名の
通り春には多くの桜に囲まれ、桜祭りも
行われるそう。桜を通じて日本やお会
式桜の日蓮宗との縁を感じなくもない。

また、イタリア人の「古い
ものを活かす」という美学
の通り、小高い山のお城
を中心とした町並みや、
家の造りにもこの地方の
古い様式が残り、その落
ち着いた雰囲気は身延山
への参拝に近い感覚にな
れるのではとも思える。

公園で信徒の方々とお話

また、チェレゼートは人
口の過疎化が進み、そこに
暮らす人は現在四五〇人
程であるが、この地域は
元はサボイア王国と言い
(現在は半分がフランス
領)、フランス料理の発祥
地とされるほど優れた食
文化があり、「ロコンプス
の生家が近くにあるなど、
観光資源も十分にあり、
お寺の活動による町の活
性化が出来ればとの思い

もある。偶然にも中国
の寺院で修行し、太
極拳や気孔等を学んだ
ことで重い病気を克服
したというイタリア人
の方も同じ町に道場を
構える予定であり、そ
ういった文化との交流
も楽しみである。夢多
き新天地への移転計
画であるが、現地の
布教活動に接して新た
めて学ぶことの多い
日々である。百聞は一
見にしかず。私の研修
も残すところ三ヶ月。
経験という土産物をま
だまだ増やして行き
たく思う。



ミラノは街中いたるところに遺跡がある



サハラ砂漠、ラクダ騎乗初体験

ニュースと 行事案内

初心者の方、お待ちしております。

「読経教室」「法華経写経会」

今年の予定

平成22年は左記の日程で行います。読経教室の初級ではお経を読むときの姿勢、声の出し方、正しい合掌などの基礎を中心に、「妙法蓮華経」の意味や読み方を学びます。（読経教室中級は初級修了者対象）
また、写経会ではお寺の静かな本堂で、お香の香りで心身を浄めて経文と向かい合います。書き上がった写経には様々な願いを込めて、お寺に納経することを勧めしています。

多くの方のご参加をお待ちしております。

読経教室初級（全5回）

春	1回	5月17日(月)	秋	1回	10月17日(日)
	2回	5月24日(月)		2回	10月24日(日)
	3回	5月31日(月)		3回	10月31日(日)
	4回	6月7日(月)		4回	11月7日(日)
	5回	6月14日(月)		5回	11月14日(日)

読経教室中級（全5回）

春	1回	3月28日(日)	秋	1回	10月20日(水)
	2回	4月4日(日)		2回	10月27日(水)
	3回	4月11日(日)		3回	11月3日(水)
	4回	4月18日(日)		4回	11月10日(水)
	5回	4月25日(日)		5回	11月17日(水)

写経会

(1月は無し)	7月1日(木)
2月4日(木)	8月5日(木)
3月4日(木)	9月3日(金)
4月1日(木)	10月7日(木)
5月6日(木)	11月4日(木)
6月3日(木)	12月3日(金)

平成21年秋

「読経教室」修了者

昨年の秋の読経教室初級・中級各コースの修了者は次の方々です。
修了者には本立寺特製のバッジが授与されました。

初級コース

石川多美子 串田 弥生 小林 薫
小林 好覚 宮原 淳 山崎 一三
以上6名

中級コース

上村 フサ 瀬沼ユリ子 原島 澄江
三吉 育代 以上4名

受講の皆さまご苦労様でした。



本立寺カレンダー

日頃の感謝の気持ちを込め、本立寺の年間行事入りカレンダーを発送させていただきますました。
本立寺では年間を通して様々な催しを行っております。ひとりでも多くの方が本立寺へと足を運んでくださることを心より願っております。



初題目講のお誘い

新年を迎えて初めてのお題目講（1月12日、夜7時）です。新たな気持ちをもつてお経を読み、お題目を唱え、住職の法話を聞くと
いう会です。
檀家さんに限らずどなたでもご参加いただけますので、お誘い合わせの上、ご参加下さい。

お汁粉、ピ
ンゴ大会もあ
ります。



八王子七福神めぐり

今年も元旦から1月10日までの期間中、八王子七福神めぐりが開催されます。
去年は、およそ2万人の参拝者が訪れ、大変賑わいました。まだ歩かれたことがない方はぜひともお参りしてみ下さい。
お寺にマップがあります。



本立寺	毘沙門天	7分
伝法院	恵比寿天	7分
金剛院	福祿寿	7分
信松院	布袋尊	10分
善龍寺	走大黒天	15分
了法寺	新護弁財天	10分
宗格院	寿老尊	10分
吉祥院	吉祥天	

いのちに合掌

365 題目の日

去る10月28日、「立正安国・お題目結縁運動」の一環として、今年で6年目となる「いのり題目の日」が堀内・妙法寺にて開催されました。テーマは「心の平和・社会の平和・世界の平和」。東京西地区各寺院から僧侶約70名、檀信徒約350名が集まり、本立寺から参加下さった22名の方々と共に、山形教亨上人(杉並区中道寺)の法話を聴き、

木鉦・うちわ太鼓・大太鼓に合わせてお題目を30分間唱え、参加者全員で一心に世界平和の祈りを捧げました。



八王子市仏教協会主催 「ねはん会の集い」ご案内

2月15日はお釈迦様がお亡くなりになった涅槃の日です。この日にちなみ、八王子市仏教協会では「ねはん会の集い」を次の通り行います。多くの方のご参加をお待ちしています。是非、ご参加下さい。

日時 平成22年2月10日(水) 午後1時より
場所 八王子市芸術文化会館
「いちようホール」

- 第一部 涅槃会法要
- 第二部 講演 石川英輔氏(作家)
「現代にいきる江戸の智慧」



- 第三部 各宗派御詠歌・讃仏歌
- 【入場無料】

成道会

12月8日は、お釈迦様がお悟りを開いた日です。これを記念し、去る11月13日、高尾山薬王院におきまして、八王子市仏教協会主催の成道会が行われました。本立寺からは11名の方にご参加いただき、仏教協会の僧侶、参列者の方々と共に、お釈迦様への敬慕を示し、お釈迦様の遺骨の一部を納めた仏舎利塔にて、それぞれの宗派を越えた合同の法要が営まれました。法要後は薬王院本堂にて講演、護摩修行が行われ、その後、大広間にて美味しい精進料理をいただきました。



暦

こよみ

1月 (睦月)

- 1日 元旦 修正会 (午前7時)
- 1〜10日 八王子七福神巡り (午前9時〜午後5時)
- 12日 初題目講 (午後7時・ピンゴ大会)
- 22日 読誦行 (午後2時)

2月 (如月)

- 2日 読誦行 (午後2時)
- 4日 写経会 (午後2時)
- 12日 題目講 (午後7時)
- 15日 釈尊涅槃会 (午前7時)
※お釈迦様がお亡くなりになった日
- 16日 宗祖降誕会 (午前7時)
※日蓮聖人がお生まれになった日
- 22日 読誦行 (午後2時)

3月 (弥生)

- 2日 読誦行 (午後2時)
- 4日 写経会 (午後2時)
- 12日 題目講 (午後7時)
- 18〜24日 春季彼岸
- 28日 読経教室 中級第1回目 (午後2時)

年回法要

今年、法事にあたる方は次の表の通りです。

平成二十二年 年回表	
一周忌	平成二十一年
三回忌	平成二十年
七回忌	平成十六年
十三回忌	平成十年
十七回忌	平成六年
二十三回忌	昭和六十三年
二十七回忌	昭和五十九年
三十三回忌	昭和五十五年
三十七回忌	昭和五十一年
四十三回忌	昭和四十五年
四十七回忌	昭和三十九年
五十回忌	昭和三十六年
百回忌	明治四十四年

お早めにお寺まで日時等をご相談下さい。

本立寺
ホームページ

<http://www.honryuji.com>